

滋会
士断
京断

河野京大教授が講演

「ひび割れ」で研修会



CPDS認定講習

京滋コンクリート診断
士会(長谷川光弘会長)
は11月25日、京都市南区
の京都テルサで第1回研
修会を開いた。全国土木
施工管理技士会連合会の
継続学習制度(CPD
S)に基づき認定講習と
して実施され、約40人が
参加した。
同会は8月に約20人で

設立されたが、現在の会
員数は正会員(診断士)
21人、専門会員(建設部
門技術士、一級建築士、
コンクリート主任技士)
13人、一般会員(他地域
からの参加者)13人およ
び賛助会員9人の計56人
の陣容に拡大している。
冒頭、あいさつに立つ
た長谷川会長は「近年は
ひび割れが入っただけで
欠陥商品のようにいわれ
る。だが、実際に耐久性
等に影響を及ぼす致命的
なひび割れは少ない。そ
うした問題を考える意味
でも、来春には劣化した
構造物を見て回る現場見
学会を企画している。さ

らに土木に限らず、今後
は建築も対象に加え研
習を積んでいきたい」と述
べた。

研修会では同会顧問を
つとめる京都大学大学院
の河野広隆教授が「コン
クリート構造物のひび割
れと耐久性」をテーマに
講演した。

ひび割れはコンクリー
ト構造物にありふれた症
状であり、あっても構わ
ないものと、耐力や耐
久性の低下につながる悪
いひび割れがあるとし、
最近はやや厳格な計検査も
あってひび割れに対して
過剰な反応がみられると
指摘。対象構造物の要求
性能を明確にし、ひび割
れと適切に「つきあう」
ことが大切だと述べた。